

北九州工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	長期学外実習	
科目基礎情報							
科目番号	0038			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	生産デザイン工学科（物質化学コース）			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	6		
教科書/教材							
担当教員	前田 良輔						
到達目標							
企業等へのインターンシップを通して以下の項目に対処できる。 ・ 毎回、取り組んだ内容を的確にまとめ、報告することができる。 ・ 取り組んだ内容を把握し、レポートとしてまとめることができる。 ・ 職場のルールを守ることができる。 ・ 職場の中でコミュニケーションが図れる。 ・ 企業等の活動を理解し、職業への意識を高めることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
継続して担当業務に積極的に対処できる。	継続して担当業務に積極的に対処できる。		継続して担当業務に対処できる。		継続して担当業務に対処できない。		
実習計画に基づいて取り組んだ内容を把握し、レポートとしてまとめることができる。	実習計画および自ら見いだした課題にも取り組み、建設的な意見を取込んだレポートとしてまとめることができる。		実習計画に基づいて取り組んだ内容を把握し、レポートとしてまとめることができる。		実習計画に基づいて取り組んだ内容の把握が不十分で、レポートとしてまとめることができない。		
企業等の活動を理解し、職業への意識を高めることができる。	企業等の活動を理解し、職業への意識を高め、自分の将来の選択に積極的に活かす事ができる。		企業等の活動を理解し、職業への意識を高めることができる。		企業等の活動を理解が不十分で、職業への意識を高めることができていない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	学校から社会・職業への円滑な移行に共通して必要な能力を育むため、後学期授業期間中の毎週、企業・公的機関等で、終日実習・実務を行うことにより、社会人として必要な知識や人間性を養い、職業に従事するための知識・態度等を育む。また、実習を通じて、就職（職業）への意識を高め、勉学の意味と目標を再認識し将来の進路選択に役立てる。						
授業の進め方・方法	後学期授業期間中の毎週 1 日、特定曜日に企業・公的機関等に通い、終日実習・実務を行う。						
注意点	毎回実習終了後、実習ノートを作成し報告すること。 実習に当たっては、受け入れ先の規律・規則・指導に従い、積極的に実習に取り組むこと。遅刻・無断欠席など、社会人として通用しない態度は厳禁であり、責任ある行動を心掛けること。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		長期学外実習の意義について理解する。 研修時の注意事項を理解する。 報告書のまとめ方を理解する。		
		2週	受入先企業での実習				
		3週	受入先企業での実習				
		4週	受入先企業での実習				
		5週	受入先企業での実習				
		6週	受入先企業での実習				
		7週	受入先企業での実習				
		8週	受入先企業での実習				
	4thQ	9週	受入先企業での実習				
		10週	受入先企業での実習				
		11週	受入先企業での実習				
		12週	受入先企業での実習				
		13週	受入先企業での実習				
		14週	受入先企業での実習				
		15週	受入先企業での実習				
		16週	実習報告会		成果報告書の作成 実習成果の報告		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3		
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3		
				目標の実現に向けて計画ができる。	3		
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3		
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3		
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3		
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3		

				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	3	
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	
				企業には社会的責任があることを認識している。	3	
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	3	
				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	
				要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。	3	
				課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	3	
				提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。	3	
				経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	3	

評価割合							
	実習先評価	発表	相互評価	態度	実習報告書	その他	合計
総合評価割合	30	30	0	0	40	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	30	30	0	0	40	0	100